

南郷だより

考えて行動できる人 ～自律・創造・しなやかな心～



学校 HPQR コード

令和7年度 第5号
2025.6.27 発行
葉山町立南郷中学校
校長 吉崎 緑
Tel. 046-875-9494

行ってきました修学旅行 ～ 京都・広島 ～

3年生が、6月17日～19日に2泊3日で京都・広島の修学旅行に行ってきました。6月ということで、雨が心配されましたが、3日間とても良い天気で、日傘をさしての移動となりました。初日は朝5時50分に学校に集合して、バスで新横浜駅に向かい新幹線で京都駅到着後、班ごとに計画したコースでの昼食・見学でしたが、清水寺や伏見稲荷大社に行く班が多くありました。2日目は、広島へ移動。宮島と平和記念公園内の資料館を見学。島にわたるフェリーと、島内を歩く鹿に感動する声が聞かれました。3日目は、平和記念公園内を班ごとにボランティアガイドさんについて見学し、昼食は広島風お好み焼きを食べて帰ってきました。3日間通して、熱中症になる生徒や大きな事故、怪我がなく、無事に行ってくることができました。学校で学習し、それぞれ考えた質問をボランティアガイドさんに熱心に質問する生徒たちの真剣なまなざしや、旅館で体育祭の時につくったおそろいのクラスTシャツを着てみんなで遊ぶ姿に、修学旅行だからこそできた貴重な経験であると改めて感じました。修学旅行費が年々あがっている中、生徒たちを修学旅行に送り出して頂いた保護者の皆様、ありがとうございました。3年生の生徒たち一人一人が、修学旅行の目標である『思いやり～考えて行動すべし』を意識して行動できた3日間でした。

新幹線車内



京都班別行動



3日目昼食お好み焼き



広島旅館内



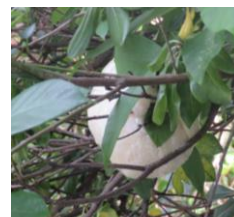
宮島行きフェリー



南郷 nature



中庭の貯水槽
(池)の近くの
木に、モリアオ
ガエルの卵があ
りました！



教育実習生（本校卒業生）が来てくれました

6月9日～27日の3週間、3人の教育実習生が来てくれました。3人とも本校の卒業生のため、南郷中学校時代のことなどをインタビューしてみました。

Q1. 南郷中学校に中学生として通っていた頃の一歩の思い出はなんですか？

Q2. 南郷中学校の生徒の皆さんに一言お願いします。



★ 先生（1C 数学科）

A1. 部活動です。バレー部で、1年生の頃に一時期部員が私一人だけという時期があり、先生とマンツーマンで練習する日々が続きました。大変なことも多かったですが、その分、自分自身としっかりと向き合うことができ、今ではとても良い思い出です。2年生になってからは、かわいい後輩たちがたくさん入ってきてくれて、時には意見がぶつかることもありましたが、一緒に過ごした時間はとても充実していて、かけがえのない経験となりました。

A2. 中学校の3年間には、たくさん笑ったり、楽しいことがあったり、時には泣いたり悩んだりすることもあると思います。でも、そんなふうに毎日を一生懸命感じられる“繊細な心”は、今の皆さんだけが持っている本当に素敵なものです。その大切な心を思いっきり使って、たくさん笑って、たくさん泣いて、かけがえのない毎日を過ごしてください！

★ 先生（2B 社会科）

A1. 1つに絞るのは難しいです…。部活動や体育祭の長縄、ブロック表現、文化祭の合唱練習、全力で歌う校歌の前の咳払い、そして登下校や休み時間などの仲間と過ごした何気ない時間の全てが、かけがえのない思い出として残っています。この実習期間は、皆さんの学校生活を見て中学校時代にタイムスリップしたように、何気ない思い出がたくさん思い返されました。中学校生活は仲間としょうもないことで思いっきり笑ったり、時には思いっきり泣いたりして、色々な経験をさせて頂きました。今の私が形作られたのは中学校3年間があってこそのように思います。私たち卒業生にとって南郷中学校は、いつでも戻りたくなる故郷のような場所です。

A2. 南郷中学校の卒業生として、私から皆さんにお伝えしたいことは2つです。1つは「かけがえのない毎日を思いっきり楽しんで！」ということ。中学校生活は一度きりです。今は当たり前のように感じていると思いますが、大人になれば戻りたくなるようなかけがえのない日々です。時間が過ぎるのは一瞬です。今を全力で楽しんでください。そして2つ目は、「仲間を大切に！」ということ。中学校を卒業したら、時に辛いことを経験することが必ずやってきます。そんな時にあなたを支えてくれるのは友人です。今そばにいた大切な仲間をぜひ大切にしてください。3週間、皆さんの笑顔にたくさん励まされました！ありがとうございました！

★ 先生（2C 英語科）

A1. 中学生だった私は、体があまり強くなく、よく保健室に通っているような生徒でした。そのため、「中学校時代を全力で楽しめたか？」と聞かれれば、胸を張って「はい」と答えられません。それでも、同級生と過ごした何気ない「日常」の一つ一つが、今ではかけがえのない思い出です。しいて「一番の思い出」を挙げるとすれば、それはレシテーションコンテストで、全校生徒の前で発表したことかもしれません。恥ずかしがり屋で、人前で話すのが苦手だった私にとって、それは苦手を乗り越える第一歩となったように思います。

A2. この3週間、本当にありがとうございました。皆さんは今、二度と戻ることのない、かけがえのない中学時代を過ごしています。今は笑えるような大事件も、悔しさの残る出来事も、楽しかった思い出も、その全てが「経験」となり、今の私を形づくっています。だからこそ、興味のあることや、やってみたいことには、ぜひ挑戦してみてください。その経験のひとつひとつが、これからのあなた自身を、そして未来を、きっと豊かなものにしてくれるはずです。最後に、受験期や卒業の時に担任の先生が何度も繰り返していた言葉を、皆さんにもお伝えします。「どこに行くかではなく、あなたがどこで何をするかということが大切なのです。」